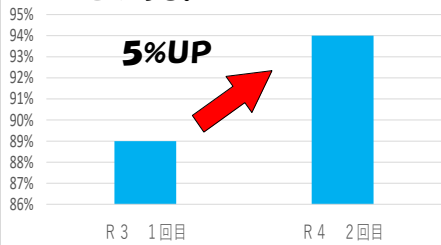


V 調査結果

児童の意識調査（R3・7～R4・7まで4回実施）

質問：算数の授業で、先生や友達の考えを聞いて、よりよくわかることがある。



「あてはまる」「よくあてはまる」の割合、89%→94%
学び合いの深まりの実感

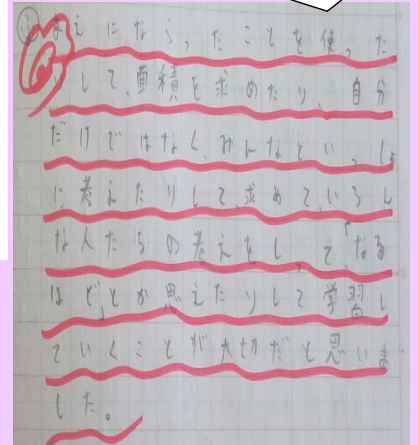
質問：算数の言葉や式、図や表、数直線などを使って自分の考えを説明している。



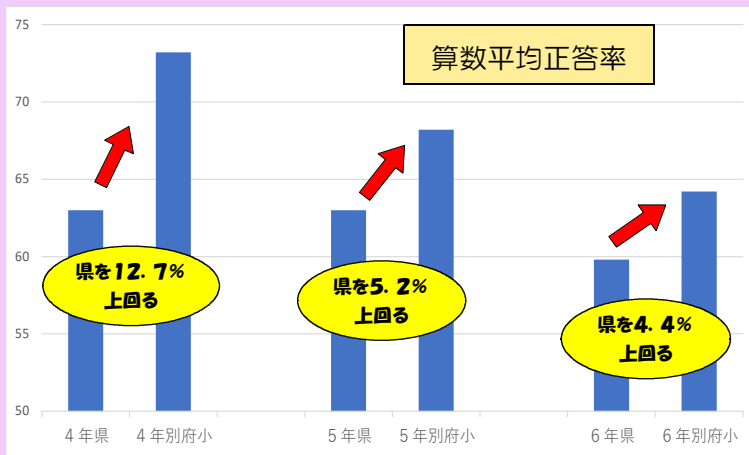
「あてはまる」「よくあてはまる」の割合、80%→84%
言葉やアイテムを使っての学び合いの高まり

児童の振り返りより

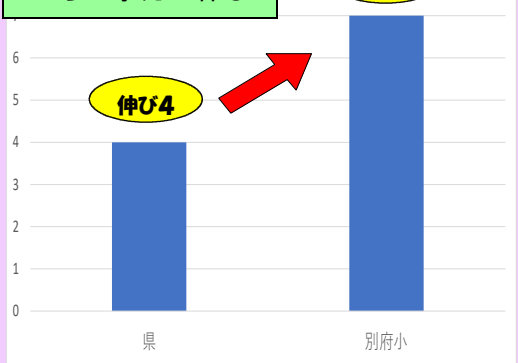
見方・考え方を働かせるよさ、
学び合いのよさの実感



令和4年度埼玉県学力・学習状況調査



現6年生の4年生時からの学力の伸び



VI 成果と課題

1 成果

- 研究を進めていくにつれ、児童の振り返りの記述に、「前に習ったことを使うといい。」「みんなと一緒に考えるとなるほど思えることがある。」といった内容が多く見られるようになった。「数学的な見方・考え方」を単元を貫いて、さらに学年を貫いて、繰り返し指導したことにより、既習の考え方を使いながら解決方法を考えたり、友達とよりよい考えを生み出したりといった自ら考え言葉豊かに学び合う児童の育成につながったといえる。
- 研究主題に基づいた算数科の授業実践や学習環境の整備を進めた結果、埼玉県学力・学習状況調査において、4年生から6年生までの3学年すべてで正答率が埼玉県の平均正答率を超えた。特に、6年生は4年生時の調査から学力レベルの伸びが7も見られ、大きく学力を伸ばすことができた。
- 「『この単元のこの時間には、児童が自らこの数学的な見方・考え方を働かせ、自問自答しながら問題を解決できるようになってほしい』というゴールを見据え、計画的に数学的な見方・考え方を指導することができるようになった。」「練り上げの場面で、式や図など一部分を提示し、みんなで考えたり、途中までの考えを提示しみんなで完成させたりする活動を行うことにより、学級全員で学び合いを行うことができるようになってきた。」といった感想が教師から聞こえるようになり、教師の実感からも研究を通して、自ら考え言葉豊かに学び合う児童の育成が図れたといえる。

2 課題

- 算数科で研究してきた「言葉豊かに学び合うための手立て」を他教科の学びにも広げていけるよう汎用的な手立てとして確立していく必要がある。

